

北海道支部ボランティア隊・第1陣

思い出の品に心痛む

見つからなかった雛人形

▽日時 5月11日～5月13日

▽場所 宮城県石巻市三つ股

▽隊員 隊長・水上国光(株新和)

富田清一郎(株ビクトリア観光)

菅野昌弘、田澤知幸(株正栄プロ

ジェクト)

▽作業 家屋内外の清掃

目的の家屋は石巻港近隣で、目的地に近づくほど家は倒壊し車の破損は酷くなる一方で、

被災した家屋の裏に車を停車して外に出ますと、マスクをしてその上に防じんマスクを重ねても耐えられないような悪臭がしていました。作業内容は家屋の泥だしと使用不能な家財の排出です。家

の中には泥とヘドロが混ざり合っており部屋中に10cm以上積もっていました。泥だしをする前に壊れた家具を運びだし作業は順調に進んでい

ましたが、一番苦労したのが畳の排出でした。水を含んでいる上に泥とヘドロがこびり付き、2人では持つ事も出来ず4人での作業となりました。家財道具は運び出す前

に被災者の方に一つひとつ確認して頂きますが、思い出の品が壊れていたり汚れてたりして悲しんでいるのを見ると、心がすごく痛み

ました。そんな事もあり少しでも被災者の方に喜んで頂けるよう、隊員一

同必死で作業したと思います。ただ残念な事に大事にしていた雛人形の女雛(2cm程)が、細心の注意を払い探しましたが最後まで見つかりませんでした。

今後への注意点ですが、ゴム手袋は丈夫なものでもガラス等で破

北海道支部ボランティア隊・第2陣

まだまだ人手不足の現地

思い出も奪い去った津波

▽日時 5月18日～5月20日

▽場所 宮城県石巻市不動町

▽隊員 隊長・高木貴範(株正栄

プロジェクト) 山内茂(株新和)

木下暢洋(株ビクトリア観光) 佐

藤英二(株サツポロユウキ)

▽作業 家屋の泥などの搬出

ボランティアセンターから作業

場の指示を受け、私たち4名と東京から来ていた方1名、熊本から来ていた方1名を仲間にし6名のチームで作業場へ向かいました。

早速、作業場の家主様から家中の片付けを依頼され作業にかか

りました。家の中には津波の泥が堆積しており、2m近い所まで津波に飲まれたのが家の中の痕跡

れてしまいます。皮手袋を重ねて使用する方が良いかと思えます。

最後に今回のボランティアに参加して、私に出来る事、そして今を大事にすることを学びました。

この様な貴重な機会を頂き、皆様

に感謝しています。(水上国光)

から分かりました。家の中の状態を見るに、有形の財産はもちろんですが、思い出やこの家で暮らしたいというような人の想いまでも奪い去ったのだと改めて実感しました。午後3時30分頃、作業終了を家主様に伝えると、「本当にありがとうございます」と感謝の言葉を戴きました。

今回、ボランティア派遣隊に参加させて戴き、被災地を直接見たことは自分にとって非常に大きかったです。普段の何気ない事がいかに幸せなのかを感じる事が出来ました。

ボランティアセンターの方々も言っておりましたが、石巻市は市民からの要望にセンターが全て応

運び出しにも細心の注意

ボランティアセンターで用具の受け取り



えられない程、ボランティアの数が不足しています。私たちが作業した家も申請してから1週間かかったとの事でしたし、行った日のテレビでは市民の要請がすでに500件以上溜まっており、なか

なか処理して行けないと報道されておりました。今後も私達に出来る事があるならば、1つでも2つでもやっていくべきだと思います。(高木貴範)

パチンコ産業、義援金で大きな成果

ホール5団体で30億円超す 全機連は約16億5千万円に

全国遊技機組合連合会(全機連)

は5月2日、パチンコ・パチスロ産業21世紀会(代表・原田實全日遊連理事長)に対し、東日本大震災の義援金拠出額が16億4900万円(4月25日現在)に達したと報告した。

全機連は遊技機メーカー、販社、周辺機器の連合組織で、日本遊技機工業組合、日本電動式遊技機工業協同組合、全国遊技機商業協同組合連合会、回胴式遊技機商業協同組合、遊技場自動サービスマシナリー工業組合、遊技場自動補給装置工業組合、遊技場メダル自動補給装置工業会、愛知県遊技機材料協同組合の8団体が加盟している。

一方、ホール5団体でも義援金は大きな成果をあげている。全日

遊連では5月13日現在、都府県方面組合から1台当たりで集めた義援金が4億6720万円、また都府県方面組合、支部組合、組合ホールが独自に日本赤十字等に寄付した義援金が20億7645万円に上り、合計25億4366万5千円に達している。同友会は4月末の時点で、1億1113万円を既に被災地に送り、PCSAは5月19日現在で、会員、賛助会員による義援金は4億533万円となっている。会員にメーカー、販社なども入っている日遊協と余暇進は、団体独自の義援金としては日遊協3188万円、余暇進100万円となっている。ホール5団体合計では30億9300万以上にのぼる義援金となる。

ほかではブリペイドシステム協会と電子認証システム協議会がともに500万円ずつ集めており、パチンコ産業としては48億円を超える義援金を集めている。

パチンコ・パチスロ産業21世紀会はさる3月16日に大震災への対応を協議した際、21世紀会として20億円超を目標に被災地への義援金を集めることを確認した。このうちホール5団体(全日本遊技事業協同組合連合会、社団法人日本遊技関連事業協会、一般社団法人日本遊技産業経営者同友会、一般社団法人余暇環境整備推進協議会、一般社団法人パチンコ・チェーンストア協会)は10億円超の拠出を前日に決定しており、これに見合う形で全機連にも義援金の拠出が求められた。全機連側は、組織内の調整をして10億円以上を集めるよう努力すると回答していた。



東日本大震災の主な経過

- 3月11日(金) 午後2時46分、宮城県・牡鹿半島の東南約130キロ(深さ24キロ)を震源とする大地震。宮城県栗原市で震度7。マグニチュードは8.8で国内最大。地震エネルギーは関東大震災の約30倍、阪神大震災の約1千倍。東北地方東海岸を中心に大津波。
- 12日(土) 東京電力福島第1原子力発電所で1号機が水素爆発。炉心溶融の恐れ、海水を注入。半径20キロへ避難指示拡大。
- 13日(日) マグニチュードは世界最大級9.0と判明。原発1号機放射能漏れ、3号機も機能喪失。大量の孤立者、全容不明。
- 14日(月) 計画停電、初日から大混乱、経済も大打撃。3号機も爆発。放射性物質拡散の恐れ2号機燃料棒すべて露出。株1万円割れ。日銀5兆円追加緩和。避難者63万人。大津波被害全容不明。
- 15日(火) 燃料棒露出続き、放射能が復旧阻む。1都7県放射能最高値避難52万人、死者4800人。東証1015円暴落。
- 22日(火) 死者9000人超す。行方不明1万3700人。3号機制御室に照明原発中枢に電源接続、冷却へ前進。原発から16キロの海で放射性物質が基準の16倍以上。出荷制限4県に打撃。東北新幹線全線4月中に再開メド。
- 4月1日(金) ピーク時25%、電力制限令今夏発動へ。汚染水、外に拡

会員に支援金協力を要請

日遊協、「継続派遣」にそなえ

日遊協は5月27日、長期化する被災地の復興に合わせてボランティア隊の派遣を継続していくため、「東日本大震災 日遊協ボランティア隊への支援金のお願ひ」と題する文書を会員宛に発信し、協力と呼びかけた。

日遊協は大震災発生後の3〜4月に深谷会長、白石良二ボランティア隊総隊長らが事務局とともに前後3回、仙台、塩竈、多賀城、石巻、陸前高田市に出勤して支援物資を届け、被災状況の調査を行った。その後、各支部のボランティア

ボランティア隊は被害の大きかった宮城県石巻市に出勤して、被災民家で汚泥・瓦礫・家具等の搬出作業、炊き出し活動を行ってきた。支部隊の出勤は4〜5月中に8回、計80人にのぼった。

6〜7月は5回40人派遣

被災地の復興は長期化する見通しであり、日遊協として今後も継続的にボランティア隊を派遣していく方針を固めている。6〜7月は5回40人の派遣（5月27日現在）が予定されている。支部からのボランティア派遣にあたっては、派遣企業が仙台市までの交通費を負担し、日遊協本部が現地での輸送、宿泊及びボランティア保険等を負担しているが、長期化にあたって本部費用の一部支援を会員に要請することになった。

支援金は1口（10万円）以上とし、6月末日までに日遊協口座に振り込む。支援してくれた会員企業名は日遊協ホームページに掲載する。



6〜7月の支部隊の派遣予定は次の通り。6月13〜15日：中国・四国支部8名▽6月20〜22日：東京都・関東支部8名▽6月27〜29日：同8名▽7月6〜8日：同8名▽7月11〜13日：同8名

〈支援金の振込先〉

口座名：社団法人日本遊技関連事業協会
口座番号：三井住友銀行 上野支店 普通7354289

被災地取扱主任者の資格

8月31日まで延長

震災日以後満了の場合

東日本大震災のため有効期間が切れてしまった遊技取扱主任者証の取扱いに関して、日遊協は5月13日、「東北地方における遊技取扱主任者証の有効期間の延長について」と題する要旨次のような文書を、関係団体、関係会員に発した。

①有効期間の延長の取扱い

今回の大震災で制定された特別措置法の規定に基づき、公的な資格・期間は8月31日まで延長されることとなっており、その規定の趣旨に準じて、東北地方（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島県）に居住地または勤務地がある遊技

大ルート不明。車、飲食店、百貨店など消費急落。

2日（土）汚染水、亀裂から直接海に流出。原発冷却へ注水継続。下水道深刻、遠い復旧。

6日（水）1号機窒素注入開始、水素爆発を阻止。小中155校、自校で再開できず。計画停電は4月中は実施せず。茨城3漁協、全面的に漁中止。震源付近海底24m動く、史上例がない。

9日（土）死者1万2915人、半数が高齢者。行方不明1万4921人。12日（火）原発事故「レベル7」に、保安院発表。チエルノブイリ級だが、放出は10分の1、ピーク事務所長の1万分の1と強調。プロ野球開幕。全国で観光宿泊キャンセル56万人。

13日（水）東電、賠償金仮払いの方針、額、時期明示せず。仙台空港、旅客便再開。

14日（木）復興構想会議、震災復興税を提起、6月末に1次提言。来日外国人3月に半減、国際会議中止相次ぐ。沿岸28地点すべて地盤沈下。

21日（木）原発20キロ圏封鎖。節電目標15%に緩和へ。復興基本法、与野党協議進まず、先送り。

30日（土）余震対策で防潮堤6月までに仮設。

5月1日（日）海水利用の冷却断念、空冷で対応。

2日（月）原発賠償4兆円と政府試算、東電負担2兆円。

3日（火）賠償に電気料金値上げを政府容認。

4日（水）車不足、生活再建の壁。

6日（金）首相、中部電力へ浜岡原発全停止の要請。防潮堤新設まで受け入れ。

8日（日）原発停止要請は浜岡原発

機取扱主任者で、大震災発生の日11日以降に有効期間が満了する遊技機取扱主任者証の有効期間を、本年8月31日まで延長する。

②臨時の講習・試験の実施

延長された期間に対応するため、8月下旬に仙台で講習・試験を実施する。

実施予定日：8月18日（木）新規、19日（金）更新。

場所：パレスへいあん（仙台市青葉区本町1・2・2 電話02・265・5111）。

なお、中止した講習・試験の申し込みを既に行っている場合は、原則としてそのまま臨時の講習・試験を申し込んだものとする。

③8月31日以降の取扱い

8月31日以降は有効期間が満了することになるので、それ以前に更新の試験に合格しない人は遊技機取扱主任者としての業務はできないことになる。遊技機取扱主任者に関する規程第10条により、特例の申請を提出している人も同様となる（この場合、9月以降の講習・試験は更新としての取扱いを受けることができる）。

【お詫び】本誌4月号では、「規程第10条を基に特例の申請を提出すれば6か月

間の延長が可能」との報道をしましたが、その後、前記のような措置をすることになりました。関係団体・関係会員に無用の混乱を招いたことをお詫びいたします。

貯玉補償基金理事会

「大震災に関する指針」を承認

特例措置としての補償へ

一般社団法人貯玉補償基金（代表理事・深谷友尋日遊協会長）は5月11日、日遊協本部会議室で第32回理事会を開き、「東日本大震災に伴う被災加盟店対応」の議案について審議した。

審議に先立ち、貯玉基金に関連する東日本大震災の被災状況が報告された。ホールは5月6日現在、休業と営業不能合わせて45店舗、センタ事業者では休業・営業不能

合わせて45事業者が被災している。

議案として「東日本大震災の貯玉補償に関する指針」が提案され、理事会は補償の対象、補償の方法、補償終了後の措置、求償権などについて記された第5条からなる指針を承認した。

貯玉基金の補償は本来、倒産した会社の貯玉会員への補償を行うものであるが、今回の大震災については特例の措置を取らなければならない部分があるとの認識で検討を続けていた。

また、被災加盟店に対する見舞金について、「5月9日時点で営業していない被災加盟店に、一律10万円をセンタ事業者一同が贈ることが報告された。

「就職受け入れ」の活動を本部から各会員へ要請

東日本大震災で仕事を失った被災者が、再び仕事を得て1日も早く安心して暮らせるように、日遊協は被災者の就職受け入れ活動を推進することになり、5月10日、「東日本大震災による被災者の就職受け入れのお願い」を会員宛に発信した。具体的には、活動に賛同する会員企業はそれぞれの管轄

地のハローワーク事務所で求人申し込みを行う。その際、「被災地支援」として申し込みれば、ハローワークが被災地へ手配してくれる。また、今後の同活動の参考にするため、受け入れ意志のある企業に対して、受け入れ条件（人数、性別、年齢、期間、職種、勤務地等）に関するアンケートを募った。

のみ。福島18施設でも下水に汚染セシウム。

9日（月）浜岡原発全炉、数日中に停止。

10日（火）警戒区域へ初の一時帰宅。避難者なお11万人超す。

12日（水）1号機炉心溶融。東電、高放射線情報公表せず、3号機爆発前に把握。

13日（金）死者1万5千人超す。死亡1万5019人、行方不明9506人。

14日（土）1号機地階に大量汚染水冠水を断念。

16日（月）2・3号機もメルトダウン。東電データが裏付け。工程表の見直し必至。

17日（火）冠水断念、循環冷却に。東電、収束の工程表変えず。砂上の収束計画。

18日（水）震災失業10万人。

19日（木）震災後、続く景気減速。

20日（金）震災翌日、首相意向で海水注入中断。東電社長に西沢俊夫氏

21日（土）中断は、班目安全委員長長の「注入は再臨界の恐れ」指摘で

と政府側。「言っていない、侮辱だ」と班目委員長。

22日（日）日中韓島嶼会談で、原発・防災で協力強化合意。風評被害の防止も。

23日（月）国交省の調査で、210避難所土砂災害の恐れ。

24日（火）3号機冷却配管、地震で破損か、耐震性に問題。地震後24時間以内に格納容器本体も損傷。

25日（水）G8サミット、地震に原発安全基準。

26日（木）海水注入、実は継続。所長の独断で、報告もせず。G8、国際原子力機関（IAEA）の強化合意。